

CNAレポート・ジャパン

Conferencing industry News report, research & Analysis - CNA Report Japan

創刊：1999年12月

発行日：毎月15日・月末

取材・編集・発行：橋本啓介

テレビ会議・ウェブ会議・電話会議システム専門 定期レポート

Vol. 15 No.14 2013年7月31日号

編集: editor@cnar.jp 広告: pr@cnar.jp 読者登録: <http://cnar.jp>

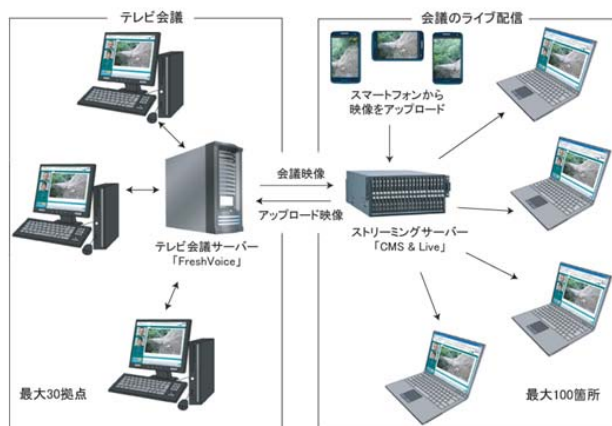
Copyright 2013 CNA Report Japan. All rights reserved.

製品・サービス動向-国内

エイネット、自治体の災害対策向け 300万円のテレビ会議やライブ配信、動画アップロードのパッケージを提供

エイネット株式会社（東京都千代田区）は、自治体の災害対策向け 300万円のテレビ会議パッケージを7月16日より販売開始すると発表。（7月10日）

このパッケージには、30拠点まで対応可能なサーバ導入型のフルHDテレビ会議（Fresh Voice Hybrid、サーバ付属）と、その会議を100箇所へ配信できるライブ配信システム、そして動画アップロード機能が含まれている。



パッケージのシステム構成イメージ（エイネット 資料）

同社によると、地方自治体限定で300万円（税別）という従来にはなかった低価格で提供する。また、東日本大震災の被災地の自治体が導入する場合は、通常価格の300万円から20%割引いた240万円で提供する。

想定される利用方法としては、災害時に国や都道府県、市町村の対策本部30拠点をつないで対策会議を行い、その映像を公民館等100箇所の地域コミュニティにライブ配信する形など。また、たとえば、被災地の状況を地域の人がスマートフォンで撮影した動画（マルチフォーマット対

応）をビデオサーバにアップロードし、会議資料として活用できる機能も備えている。

同社によると、今回のパッケージによって、地方自治体の災害に対する備えを大幅に前進させることが可能という。

Fresh Voiceは、ソフトウェアタイプとしては世界で初めて実現したH.264SVCによるフルHDなどによって2700社以上に導入されている。企業のほか、病院、大学、公共施設などで実績がある。

ディアイエスソリューション、「DSol ユニファイドコミュニケーション・パッケージ」の販売開始

ディアイエスソリューション株式会社（東京都港区）は、シスコ製品をベースにビデオ会議・Web会議・スマートフォン連携を統合した安価なパッケージ「DSol ユニファイドコミュニケーション・パッケージ」を7月1日より販売を開始。（7月1日）



パッケージの基本構成（ディアイエスソリューション 資料）

DSol ユニファイドコミュニケーション・パッケージは、PBX機能やユニファイドコミュニケーション（UC）を実現するそれぞれのアプリケーションをシスコ製サーバ（UCS）上に仮想化技術を用いて構築する。テクニカルサポートをバンドルし、端末台数750台までの規模を構成できるようになっている。

中堅中小企業ユーザを対象に、利用形態は、顧客環境で

利用するオンプレミス版と、DSol が管理するプライベートクラウド上で運用と共にサービスを利用する2種類のプランを用意する。

パッケージの特長としては以下の通り。

(1) スマートデバイスを利用した固定テレビ会議端末とのテレビ会議が行える。

(2) Web 電話帳と「Cisco Unified Communication Manager」を連携させコールバック発信機能を使用することで、外出先からでも会社の電話番号で発着信できる。加えて、通信会社の定額サービスを利用することで、携帯電話から発信しても会社の固定電話料金のみで通話できる。

(3) Web 電話帳はブラウザでの提供となり、スマートデバイスなどの端末に個人情報が残らない形になっている。

(4) コミュニケーション相手の在籍状況を確認した上で、チャット・Web 会議・資料共有などが利用できる。

(5) IP電話としての機能により、オフィスのレイアウトフリーに対応し、どの席の電話機でも、自分の内線/外線番号の電話機として利用できる。同一の番号で自席の電話と携帯電話やスマートデバイスを同時に呼び出せる。

このパッケージの 200 台端末規模での価格例は、初期標準価格 850 万円から、また、月額運用費プライベートクラウド版で 15 万円～(回線費用は別途)となっている。

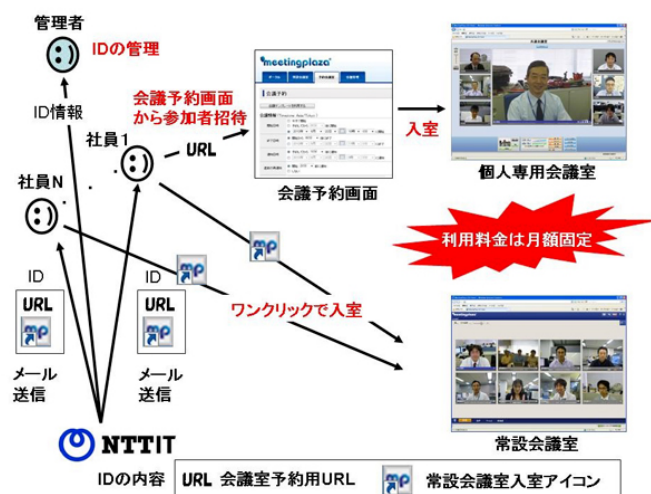
ディアイエスソリューションでは、顧客への直接販売のほか、販売店への提案も実施する。また、DSol 内の運用・保守サービスを行っている同社のサポートマネージメント課がヘルプデスクサービスや遠隔監視を実施し、協力企業と共にサポートを提供する。

同社では、3 年間で 100 社の導入を見込んでいる。

NTT アイティ、社員一人ひとりに個人用の専用 Web 会議室を提供するクラウド型サービスを開始

NTT アイティ株式会社(横浜市中区)は、社員ひとりひとりに個人用の専用 Web 会議室を提供する、月額定額制のクラウド型「ミーティングプラザ MyID サービス」を発表。7 月

10 日より提供開始する。(7 月 9 日)



ミーティングプラザ MyID サービスの構成 (NTT アイティ 資料)

従来は、Web 会議室の予約や管理は管理者が行い、社員は利用するだけというのが一般的だったが、このミーティングプラザ MyID サービスでは、ID 登録した社員が個人単位の専用会議室を所有して、会議室の予約、参加者の招待などを行えるだけでなく、自由に常設会議室に入室できるようになったところに特徴がある。

個人専用会議室は、ID 登録した社員が個人専用の会議室として持つことができるもので、会議室の予約や参加者の招待・参加(メール、URL のクリック)などを行えるようになっている。そのため、ID 登録をしていない他の社員はこの会議室を予約することはできなく、ID 登録社員に招待されることにより予約会議室に入室できる仕組みとなっている。

一方、ID登録社員は受信した常設会議室入室アイコンをクリックすることにより常設会議室に入室できる。管理者が設定する会議室で、ID 登録写真全員で利用できるようになっている。また、常設会議室入室アイコンは、メールに添付しての送付や USB メモリに入れて持ち運ぶことができるようになっている。

会議室は管理者が自由に増設することができるとともに、利用できるID登録社員の指定は自由に行え、組織・業種・役職ごとに常設会議室を設置することが可能。

社内定例会議用や社員の意見交換の場としての利用のほ

か、震災時には、自宅や出先からワンクリックで入室し、安否報告、業務連絡、避難指示など BCP 対策会議室として利用できる。

なお、管理者は、社員の利用状況の把握、社員 ID の変更、削除、新規登録を自由に実施でき、また、ID 登録社員の個人専用会議室の利用権限、常設会議室への入室権限などの可否を自由に設定することが可能となっている。

表1 ミーティングプラザ MyIDサービスの価格(税別)

社員数(同時接続拠点数)	初期費用/社員	月額基本料金/社員
50(5)	600円	900円
100(10)		750円
200(20)		600円
320(32)以上		480円

サービス価格 (NTT アイティ 資料)

利用料金は、同時に接続できる最大の拠点数(同時接続拠点数)に応じた毎月定額制のため、超過料金を気にせず、安心して利用できるという。

このサービスで使用できる端末は、WindowsPC、Mac、iPad/iPhone、Android 端末となっている。

NTT アイティによると販売開始は7月10日。販売目標は年間1000同時接続拠点数。

ログスウェア、オンライン LIVE セミナー配信システムにプリペイド制を提供

ログスウェア株式会社(茨城県つくば市)は、オンライン LIVE セミナー配信システム「POWERLIVE GigaCast(パワーライブ・ギガキャスト)」のクラウド型プランに、プリペイド制料金モデル「GigaCast Cloud プリペイド制」を追加した。(6月7日)

プリペイド制では、1セミナーあたり6,000円からオンライン LIVE セミナーを開催できる。事前にポイントを購入し、使用した分だけポイントを消化する方式のため、開催頻度が少なく単発の小規模セミナー向けに最適なプランという。また、1社1回に限り、1セミナーあたり3,000円のお試し版も用意(1社1回限定)。

プリペイド制開始の理由。従来のクラウド型は、月額固

定料金のみを提供していた。使い放題になっているため、セミナーの開催頻度が高い利用者にとっては、非常にコストパフォーマンスの高いサービスだが、月に1度あるいは年に数回など不定期で利用頻度が少ないユーザには毎月のコストが負担になっていた。この課題を解決するのが今回発表されたプリペイド制だ。



POWERLIVE GigaCast 画面例 (ログスウェア 資料)

プリペイド制でのポイント消費量は、セミナーの予約時間や予約人数ではなく、実際の視聴者数を分単位で計算したもの。予定した参加者数が集まらなかった場合などで、無駄な費用が発生することはない。

これまで、オンラインセミナーの利便性は理解しつつも、価格が理由で利用できなかった方々、単発でライブセミナーを開催したい方などにこのプリペイド制は最適であると同社では説明している。

POWERLIVE GigaCast は、インターネット上でのライブセミナー配信に特化して開発された専用システム。金融サービス、教育現場、企業説明会などの分野で活用が広がっているという。自社サーバにシステムを構築する「インストール型」と、サーバや回線一式を SaaS 型で提供する「クラウド型」の2種類を提供している。

(次ページへ続く)

■ブイキューブ、「サイボウズ連携」のオプションを販売開始

株式会社ブイキューブ(東京都目黒区)は、同社の Web 会議サービス「V-CUBE ミーティング」のオプション機能として「サイボウズ連携」オプションを7月5日より販売開始と発表。(7月5日)



グループウェアからの連携イメージ(ブイキューブ 資料)

サイボウズ連携は、サイボウズ株式会社(東京都文京区)が提供するグループウェア製品と連動し、Web 会議の予約管理を一元化するもの。

これまでのサイボウズ連携は、cybozu.com からのみとなっていたが、V-CUBE ミーティングをすでに導入しているユーザーから利用中の製品と連携させたいという要望を多く受けていた。今回のサイボウズ連携オプションの販売は、こうしたニーズに応えるものとなっている。

なお、今回の対象となるグループウェア製品は、「サイボウズ Office on cybozu.com」「Garoon on cybozu.com」「サイボウズ Office(パッケージ版)」「サイボウズガルーン(パッケージ版)」となっている。(バージョンについては確認要。)

*関連:定期レポート2012年6月30日号など。

バッファロー、大人数の Web 会議にも対応する 180 度広角視野を実現した Web カメラ発売
株式会社バッファロー(愛知県名古屋)は、マイク内蔵 60 万画素 Web カメラ 180 度広角モデル「BSW180ABK」を発売すると発表。(7月18日)

BSW180ABK は、2 つのレンズを搭載することで 180 度

の視野角を実現したカメラ。視野角の広さを活かし、参加者が複数人のテレビ会議/Web 会議や監視用などの利用が行える。魚眼レンズを用いた高視野角タイプに比べ歪みが少ない映像を得られるという。

撮影角度を変えることができ、設置に便利なフレキシブルネックスタンドが付属しており、スタンドを本体から取り外すと三脚用ネジ穴となっているため、市販の三脚と組み合わせて利用することもできる。

一方、音声については、ワイドに集音できるステレオマイクを搭載している。また、ミニプラグ端子も備え市販のマイクも接続できる。

今回発表された 180 度対応 Web カメラは同社として初めての製品化で、8 月下旬より全国の家電量販店などで購入できる。希望小売価格は、13,400 円(税別)。

ビジネス動向-国内

NEC のクラウド型ビデオ通話サービス、東京北区へ提供、今後対応言語拡大検討、幅広い業種へ提案

NEC は、同社の「クラウド型ビデオ通話サービス」が東京都北区に採用されたと発表。(7月2日)

クラウド型ビデオ通話サービスは、ビデオ会議システム、スマートデバイス、5 カ国語対応の通話サービスをトータルに提供するもの。

「住民基本台帳法の一部を改正する法律」が施行され、外国人住民も日本人と同様に住民票が作成されるようになり、北区において通話スタッフの配置を行っていたが、外国人住民からの問い合わせが増加し、通話スタッフの確保や対応言語の制限、スタッフ数が限られていることにより生じる待ち時間などが課題となっていた。

NEC が提供するクラウド型ビデオ通話サービスは、スマートフォンやタブレット、PCなど(専用のアプリをインストール)を用いて、来庁した外国人住民と遠方にいる通話者をビデオ会議で接続する。住民と区職員のやりとりを、スマートデバイスを介して通話者がリアルタイムに翻訳し、スムーズな窓口業

務を実現する。これにより、幅広い言語に対応できるとともに、窓口での外国人対応時間、待ち時間の短縮が可能になると期待されている。

通訳は、英語・中国語・韓国語・ポルトガル語・スペイン語の5カ国語を24時間365日リアルタイムで利用可能。また、通訳センター側のパソコン端末と利用者のスマートデバイス間の画像共有も可能で、画面上で必要資料を同時に確認しながらの通訳にも対応する。さらに、ビデオ通話システムは NEC 独自開発の映像・音声データのネットワーク配信技術を活用している。

本サービスは、クラウド型で提供しているため、利用者側でシステム構築は不要。運用管理コストを低減するとともに、専任の通訳者の配備も不要となる。申し込みから最短3日でサービスの利用が可能となっている。

NEC は、ベトナム語やタイ語など今後の対応言語の拡大を検討しており、今回の実績をもとに、クラウド型ビデオ通訳サービスを医療機関・商業施設・観光施設など、幅広い業界に提案し、今後3年間で300件の導入を目指す。

製品・サービス動向-海外

Vidtel 社、クラウド型テレビ会議サービスが webRTC ベースのデータ共有に対応

Vidtel 社は、同社が提供しているクラウド型テレビ会議サービスが WebRTC ベースのデータ共有に対応したと発表。(6月12日)

これにより、ブラウザで相手とテレビ会議が行えるだけでなく、コンテンツの共有も一緒に行えるようになった。WebRTC はブラウザで動作するため、特別なハードウェア装置やソフトウェアプラグイン、あるいはダウンロードは必要がない。SIP・H.323・Skype・WebRTC・GoogleTalk が混在した会議で映像やデータ共有が行える。

CUMeeting 社、Web ベースのテレビ会議システムソフトウェアを発売

SaaS ソフトウェア開発に注力している CUMeeting 社(中

国、深セン)が、Web ベースのテレビ会議システムソフトウェア「CUMeeting」を発売した。(7月1日、24-7pressrelease)

CUMeeting の特長は以下の通り。(1)多地点接続に対応しており同時に16拠点とのテレビ会議が行える。(2)映像の解像度は720p および1080pに対応。(3)遠隔 PTZ 制御が可能で遠隔制御でズームインやズームアウト、カメラのポジション設定に対応。(3)資料・アプリケーション共有、ホワイトボード共有。パワーポイント・ワード・エクセル・PDF・イメージ・テキスト・動画などを共有したり、MP3・WMV・AVI などの配信(broadcast)や参加者間で送受信が可能。(4)テキストチャット。プライベートやパブリックによるチャットを行える。(5)投票機能と結果の公表ができる。

料金は、月額\$19ドル(8人の会議)から。その他の料金は利用ニーズに応じて設定されている。

ビジネス動向-海外

Mitel 社と Vidyo 社、販売代理店契約を締結

Vidyo 社(米)と Mitel 社(カナダ)は、販売代理店(リセラー)およびディストリビュータ)契約を締結した。(6月25日)

今回の締結により以下の対応となる。(1)Mitel 社は、同社のユニファイドコミュニケーション製品に Vidyo 社のビデオ会議およびテレプレゼンスソリューションを統合する。(2)Mitel 社が北米で提供している「MiCloud as a Service」クラウドサービスの一部として Vidyo ソリューションが提供される。(3)Mitel 社のグローバルチャネルパートナーは、Vidyo を統合したソリューションやクラウドサービスを販売することができる。

リコーアメリカズコーポレーション社と Vidyo 社、共同で「Unified Communication System P 3000」の北米での販売開始

リコーアメリカズコーポレーション社(米)と Vidyo 社(米)は、「Unified Communication System P 3000」の北米での販売開始を共同で発表した。(6月27日)

Unified Communication System P 3000 は、少人数向けポータブル型専用端末としてすでに日本で販売(発売日:2011年8月22日)されており、今回北米においても発売すること

になった。合わせて、Windows PC や iPad に対応した「Unified Communication System Apps」も提供する。

製品は、すでにリコーの直販部隊を通して販売されており、費用については、P3000 の端末代金(\$2,200)にクラウドサービスの利用料となっている。加えて、Apps の Windows 版はリコーの Web サイトから、iPad 用は iTunes Store から無料でダウンロードできる。利用料は月額費用に含まれている。

出展レポート-国内

■ メディアプラス、オフィスサービス EXPO 2013 にライフサイズ「Icon シリーズ」を出展

株式会社メディアプラス(東京都千代田区)は、7月10日から12日まで東京ビックサイトにて開催された「オフィスサービス EXPO 2013」(主催:リード エグジビション ジャパン株式会社)に、今年の春に国内発表された「Smart Video」をコンセプトとしたライフサイズの次世代ビデオ会議システム「LifeSize Icon(ライフサイズ アイコン)」の展示およびデモを行った。



メディアプラス ブース (メディアプラス 資料)

「この展示会はユーザが多く、解像度などのこまかな機能比較よりも、たとえば、テレビ会議を利用しているユーザでネットワークの問題とか、あるいは導入に関することなど具体的な質問が多い。また、ライフサイズのHD画質などについても反応がよく、来場者と内容の濃い話ができてとても

満足している。」(メディアプラス 代表取締役 尾崎 修司氏)

ライフサイズは、2009年にLogitech社(日本法人:株式会社ロジクール)を買収し、現在は、ビデオ会議部門として事業を展開しており、日本窓口であるライフサイズ・ジャパンも、都内にあるロジクール社内にオフィスを構えている。また、メディアプラスは、ライフサイズと昨年より国内販売代理店契約を締結しており、メディアプラスは国内にある4社のディストリビュータのうち1社だ。

ライフサイズは、現在のビデオ会議システムは従来に比べ、コストはさがり導入や操作環境はより簡単になってきたものの、まだまだシンプルにする余地があると考えていた。

そこでライフサイズは、スマートフォンの簡単さに着目した発想をビデオ会議システムに取り入れた。それをSmart Videoという。スマートフォンは、指操作で簡単であるし、必要なアプリは必要な時に必要な分だけダウンロードして利用することができる柔軟さがある。そういったスマートフォンのもつ簡単さや柔軟さ、利便性をビデオ会議システムに取り入れられないかというのがSmart Videoの基本的な考え方だ。このSmart Videoは既発売の「LifeSize UVC Platform」とIconシリーズを組み合わせ実現している。

「Iconシリーズ単体だけでもビデオ会議は行えるが、真のSmart Video環境を実現するためにはLifeSize UVC Platformと組み合わせる利用するのが最適だ。」(メディアプラス)

LifeSize UVC Platformは、従来のMCUやストリーミング/レコーディング、ゲートウェイ、ゲートキーパ、運用管理システムなどをVMwareなどの仮想環境マシン上で集約しワンプラットフォームで提供するインフラストラクチャソリューションだ。

一方、Iconシリーズは、HDビデオ会議のパイオニアとしてのライフサイズの従来のHDビデオ会議システムの基本機能や性能を踏襲しながらも、ユーザの実使用環境でのこれまでのフィードバックから、必要のない機能はできる限りそぎ落とし究極のシンプルさを実現したところに大きな特長がある。それは、Iconシリーズのビデオ会議画面(ユーザインターフェイス)やボタンが2つしかないリモコンに象徴的に現れている。

「スマートフォンみたいに指操作はできないが、シンプル化したリモコンで、システムのことは何も知らなくても、画面上のアイコンを追ってだけで操作ができるようになっていいる。これほど簡単なものはないと自負している。」(メディアプラス)



メディアプラス ブース (メディアプラス 資料)

導入に関しては、Icon シリーズは端末の購入となるが、一方、LifeSize UVC Platform は、市販の汎用サーバをすでに社内に所有していればそれに、ライフサイズから指定された Web サイトから UVC アプリケーションをダウンロードし、インストールするだけですぐに使えるようになっている。また、MCU やレコーディングなどの各機能は、ライセンスキーでアクティベートすることで必要な分を必要なだけ利用できる仕組みとなっている。

たとえば、MCU ポート数も導入当初は最小におさえておき、後で、ライセンスキーでアクティベートするだけでスケールアップできる。汎用サーバを買い換える以外は物の調達は不要だ。

この背景には、昨今、高性能になってきた市販の汎用サーバの存在、並びに、仮想技術を含めたソフトウェア化の方向へ進みつつあるビデオ会議の存在がある。LifeSize UVC Platform は、その両者を組み合わせることで実現している。

「従来は、MCU などは専用装置で発注から設置まで数ヶ月など時間のかかる、また、設置時にはとても手間のかかるものだったが、LifeSize UVC Platform は、システム担当

者にとって手間がかからない、また負担が減る、しかも TCO も下がるメリットがある。」(メディアプラス)

先ほどの尾崎 修司 氏は 6 月フロリダで開催された InfoComm 2013 に参加。汎用サーバの高性能化を背景にビデオ会議システムのソフトウェア化は一段と加速するだろうと実感を新たにしたいという。

メディアプラスは、ディストリビュータの一社としてライフサイズ製品も強気に展開していく考えだ。また、メディアプラスとしての展示会出展についても、東京都内のイベントだけでなく、地場に強みのあるパートナーと協力して県単位の地方の展示会にも積極的に出展し、事業の拡大を図っていききたいと尾崎 修司 氏は今後の抱負を語る。

セミナー・展示会情報

< 国内 >

【8/2 開催 無料 Web セミナー 英語】 Virtual Training Best Practices

日時: 8 月 2 日 (金) 11:00~(シンガポール時間)

会場: Web セミナー

主催: アルカディン社

詳細・申込: <http://www.arkadin.com/jp/virtual-training-best-practices>

*アルカディン・ジャパンにて案内。

■会議の効率化を実現! 『ConforMeeting 無料体験セミナー』定期開催

日程: 8 月 7 日 (水)、14 日 (水)、21 日 (水)、28 日 (水)

※全ての日程で 13:30-14:30、15:30-16:30 の 2 回開催

※9 月の予定もあり。

会場: NEC 情報システムズ 本社 (東京都港区)

主催: 日本電気株式会社、株式会社 NEC 情報システムズ

詳細・申込:

<http://www.nec-nis.co.jp/topics/event/conformeeeting/seminar.html>

Polycom Day - Microsoft Lync 連携 - マイクロソフト社とポリコムがご紹介します!

日時: 8 月 23 日 (金) 15:00-17:30 (開場: 14:45)

会場: ポリコムジャパン セミナールーム (東京都千代田区)

主催: ポリコムジャパン株式会社

詳細・申込: <http://www.polycom.co.jp/company/events/index.html>

国内その他: <http://cnar.jp/cna/event-j.html>

海外その他: <http://cnar.jp/cna/event-r.html>

* イベント情報は、情報が入り次第、随時掲載しています。

CNA Report Japan アーカイブ電子ブック版

>2003年-2012年 http://www.catalog-square.co.jp/cna_report/

>2013年 http://www.catalog-square.co.jp/cna_report/ebook/

電子ブック制作: カタログスクウェア株式会社

<http://www.catalog-square.co.jp>

Twitter、Facebook、dtc-forum

ツイッターとフェイスブック、dtc-forum を通して遠隔会議関連の情報を配信しています。よろしければご覧ください。

定期レポートでは各社からのプレスリリースあるいは取材をベースに作成されていますが、dtc-forum とフェイスブックページでは、橋本がピックアップした、インターネットで閲覧できるさまざまな遠隔会議およびUC関連の情報(テキスト、写真、動画、音声)を皆さんとシェアしています。Twitter では各社からのリリース及びメディアの記事の見出しなどが中心です。

>dtc-forum メーリングリスト

<http://cnar.jp/cna/dtcforum-ml.html>

>Twitter

—日本語版: <https://twitter.com/cnarjapan>

—英語版: <https://twitter.com/cnarjp>

>Facebook

—「遠隔会議システム & ユニファイドコミュニケーション市場トレンドワッチ」

<https://www.facebook.com/unifiedcom>

—「橋本啓介」個人のページ

<https://www.facebook.com/keishashimoto>

編集後記

今号もお読みいただきましてありがとうございました。

31日に定期レポート発行が迫っていた29日(月)の早朝、10年2ヶ月何も問題なく使用してきたデスクトップパソコンが突然壊れ、一時パニック状態に。

とりあえず、自宅にある家内のデスクトップパソコン(こちらも同じくらい古い)を借りて定期レポートを準備しました。家内のパソコンは仕事用ではありませんので、そのためのソフトのインストールや設定で手間取り、焦りました。

改めて自分の仕事は、パソコンやインターネットなどがないと成り立たないことを思い知らされたとともに、それに合わせて、パソコンのクラッシュやデータのバックアップなどのリスク管理もしっかりとやらねばと痛感しております。

今回にあたって気がついた点や反省点などを振り返り今後の業務に生かしていきたいと考えています。

もっと各社からのリリース情報をカバーしたいところでしたが、間に合いませんでした。次号以降でキャッチアップしていきます。

次号もよろしくお願い致します。 橋本啓介